

アフタヌーンセミナー10

多焦点IOLの近未来を見つめて!

日時 2026年 10月30日(金) 15:20~16:10

会場 第5会場 国立京都国際会館 2F Room B-1



ビッセン宮島 弘子 先生
東京歯科大学水道橋病院

座長

根岸 一乃 先生
慶應義塾大学



人生100年時代を迎え、イキイキと快適な毎日を過ごしたいとの高齢者のニーズは益々向上しているとともに、さまざまな分野におけるテクノロジーの進化に伴う生活様式の変化に応じてライフスタイルも多様化を見せています。こうした豊かでアクティブな老後のQOLを支えるためには、白内障手術後の高質なQOVの実現は非常に重要であり、多焦点IOLはその大きな役割を担うオプションのひとつといっても過言ではありません。

近年では様々な進化された多焦点IOLが登場し、今後の使用機会の拡大も期待されていますが、その普及には、多焦点IOLを取り巻く環境を適切に捉え、最適な選択を心がけていく必要があります。

多焦点IOLの近未来を見据えた場合、本邦における特徴的な環境因子として“近視”人口の増加や“緑内障”有病率の高さが挙げられるとともに、多様化する見え方へのニーズをベースとした“患者満足度”との向き合い方はとても大切なテーマとなってくると考えられます。

本セミナーでは、これらをkey word に、多焦点IOLの近未来像について考えてみたいと思います。



演者1 **鳥居 秀成 先生**
慶應義塾大学

強度近視症例と多焦点IOL



演者2 **太田 友香 先生**
東京歯科大学水道橋病院

緑内障合併症例と多焦点IOL



演者3 **柴 琢也 先生**
六本木 柴眼科

患者満足度と多焦点IOL

多焦点IOLの近未来を見つめて!

座長



ビッセン宮島 弘子 先生

東京歯科大学水道橋病院

1981年 慶應義塾大学医学部卒業
慶應義塾大学医学部眼科学教室入局
1983年 川崎市立川崎病院助手
1984年 ドイツ・ボン大学眼科助手
1987年 慶應義塾大学医学部眼科眼科学教室助手
1989年 国立埼玉病院眼科医長
1992年 慶應義塾大学医学部眼科眼科学教室非常勤講師
1995年 東京歯科大学市川総合病院眼科講師
2000年 東京歯科大学水道橋病院眼科助教授
2003年 東京歯科大学水道橋病院教授
2022年 東京歯科大学水道橋病院名誉教授・特任教授

座長



根岸 一乃 先生

慶應義塾大学

1988年 慶應義塾大学医学部卒業・同眼科学教室入局
2001年 慶應義塾大学眼科学教室専任講師
2007年 慶應義塾大学眼科学教室准教授
2017年 慶應義塾大学眼科学教室教授
2021年 慶應義塾大学眼科学教室教授 教室主任
2025年 慶應義塾大学副学部長

演者1



鳥居 秀成 先生

慶應義塾大学

2004年 慶應義塾大学医学部 卒業
2004年 横浜州市市民病院臨床研修医
2006年 慶應義塾大学医学部眼科学教室 入局
2007年 けいゆう病院眼科
2009年 慶應義塾大学医学部眼科学教室 助教
2014年 学位(医学博士)取得
2020年～現在 慶應義塾大学医学部眼科学教室 専任講師
2021年 北海道大学医学部非常勤講師(兼任)

演者2



太田 友香 先生

東京歯科大学水道橋病院

2012年 名古屋市立大学医学部 卒業
2016年 東京歯科大学水道橋病院 眼科 助教
2018年 慶應義塾大学病院 眼科学教室 助教
2020年 東京歯科大学水道橋病院 眼科 助教
2021年 東京歯科大学水道橋病院 眼科 講師
2022年 慶應義塾大学医学部眼科学教室 特任助教
2024年 東京歯科大学水道橋病院 眼科 准教授

演者3



柴 琢也 先生

六本木 柴眼科

1994年 東京慈恵会医科大学 卒業
1994年 国立病院機構東京医療センター 臨床研修医
1996年 東京慈恵会医科大学眼科学講座 助手
2002-2003年 フランス国立パリ第6大学附属眼科病院 研究員
2007年 東京慈恵会医科大学眼科学講座 講師
2014年 東京慈恵会医科大学付属第三病院 眼科 診療部長
2017年 東京慈恵会医科大学眼科学講座 准教授
2019年 六本木 柴眼科 院長